

漁況予報 いわし

第159号

2010年5～6月漁期
(2010年5月17日発行)

＝ 予 報 ＝

＝ 概 況 ＝

【まいわし】

主要定置網におけるマイワシ総漁獲量は、3月が16トンと前年(50トン)を下回ったものの平年(19トン)並みで、つづく4月は111トン(速報値)と前年(24トン)および平年(13トン)を大きく上回りました。

魚体は小羽～中羽マイワシ(未測定)が主体で、これに大羽マイワシも混獲されました。

佐島地区のまき網は、4月下旬に中羽マイワシ主体の漁獲がありましたが、漁場形成は単発的なものに留まりました。

3、4月に漁獲主体となった小羽～中羽マイワシは、2009年生まれの1歳魚と考えられます。近年の傾向から、今期も引き続き1歳魚主体の漁獲が継続するでしょう。

【かたくちいわし】

主要定置網におけるカタクチイワシ総漁獲量は、3月が440トンと前年(436トン)および平年(380トン)並みで、つづく4月は197トン(速報値)と前年(610トン)および平年(602トン)を大きく下回る漁獲量でした。

魚体は、体長9～12cmの小型成魚および大型成魚が主体でした。

佐島地区のまき網は、餌イワシとしての漁獲が継続したものの、低調に推移しました。

【しらす】

3月11日に解禁となった相模湾のシラス漁は、3月中は湾内の水温が低く、前年同様まとまった漁獲が認められないまま経過しました。4月上旬に黒潮系暖水が湾内に波及したこととともない、各地の漁場にカタクチシラスの群が出現し始め、さらに4月下旬に再び暖水波及があった直後から、全域で漁が本格化しました。

前号でもお知らせしたとおり、春シラスの親となる沖合のカタクチイワシ大型成魚の資源状況は近年では比較的高い状態にあります。そのため、沖合におけるカタクチシラスの発生量も高いことが予想され、海況次第でこれらが引き続き相模湾内に来遊することが期待されます。

【まいわし】

今漁期は、2009年生まれの中羽マイワシが漁獲の主体となるでしょう。

今漁期の漁獲量は、太平洋系群の資源量指数から、定置網を主体に約270トンと予測されます。

*縦軸：主要定置網+まき網

【かたくちいわし】

今漁期は、小型成魚(10～11cm台)および大型成魚(12cm以上)が漁獲の主体となるでしょう。

今漁期の漁獲量は3～4月の定置網漁獲量から、定置網を主体に約1,000トンと予測されます。

*縦軸：主要定置網+まき網

【しらす】

今漁期は、春生まれのカタクチシラスが漁獲の主体となるでしょう。

今漁期の漁獲量は、カタクチイワシの大型成魚資源量指数から、約120トンと予測されます。

過去5年の5・6月漁期の漁獲量と今漁期の予測量

